

リーディングDXスクール事業【実践事例】

北海道帯広柏葉高等学校（北海道）【指定校】

【取組内容】 教育課程全体を通じた情報活用能力の育成

目的

教育課程全体を通じて情報活用能力の育成を図る

取組の流れ

- ① 情報活用能力に関する意識調査の実施（1回目）
*対象：第1学年
- ② 各教科等における取組の設定
- ③ ②を踏まえた授業実践
- ④ 情報活用能力に関する意識調査の実施（2回目）
- ⑤ ④を踏まえた授業実践の方向性等の修正
- ⑥ 情報活用能力に関する意識調査の実施（3回目）
- ⑦ 各教科等における次年度の取組の検討

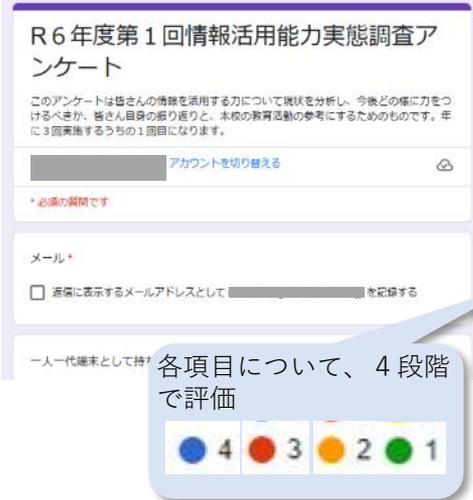
*⑥、⑦は報告書以降の取組
*情報活用能力調査の一部で生成AIに関する意識調査を実施（様式Ⅲ-B1を参照）
* は本報告で取り扱う内容

【工夫①】
・生成AIの活用に関する調査と併せて実施

【工夫②】
・高等学校学習指導要領に示されている「情報活用能力」を各教科等で改めて整理し、指標を設定

【工夫③】
・年度内に複数回測定を実施し、授業実践の方向性を検討

調査の実施



各項目について、4段階で評価

情報活用能力調査様式のダウンロードはこちらをクリック

情報活用のための知識・技能

あなたは次のことが得意ですか？

- 4 得意
- 3 どちらかという得意
- 2 どちらかという苦手
- 1 苦手（やったことがない）から選んでください。

インターネットを使って情報を収集する。

○ 4
○ 3
○ 2
○ 1

図書館で情報を収集する。

○ 4
○ 3

インターネットを使って情報を収集する。

図書館で情報を収集する。

コンピュータを使って文章を作成する。

コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。

コンピュータを使ってデータを分析し、グラフなどに表す。

コンピュータを使ってプレゼンテーションを作成する。

コンピュータを使ってプログラムを作成する。

学んだことや学んだ成果を記録するためにコンピュータを使う。

調べたことや考えたことを共有するためにコンピュータを使う。

調べたことや考えたことを発表するためにコンピュータを使う。

調査項目の一例

各教科の取組内容を設定

教科	取組内容	該当のアンケート項目
国語科	授業の手法・単元によって取り組む内容は違わざるを得ないが、情報の提示、問題演習、生成AIによるアイデア出しについて、各科目で単元の一部ないし、全部に取入れられる。	図書館で情報を収集する。インターネットを使って情報を収集する。コンピュータを使って文章を作成する。コンピュータを使ってプレゼンテーションを作成する。学んだことや学んだ成果を記録するためにコンピュータを使う。調べたことや考えたことを共有するためにコンピュータを使う。
地理公民科	提示された課題に対し、調査・考察を行い、レポートを提出し生徒に共有する。	インターネットを使って情報を収集するコンピュータを使って文章を作成するコンピュータを使ってプレゼンテーションを作成する学んだことや学んだ成果を記録するためにコンピュータを使う
数学科	課題や補足資料の提示、板書事項のデジタル化、グラフや図表の作成および分析など	デジタル化された板書による復習、グラフや図表を作成し分析に活用
理科	実験の測定結果等をコンピュータでまとめ、グラフ等を作成し分析する。	コンピュータを使ってデータを分析し、グラフなどに表す
外国語科	ライティングやスピーキング等の課題についてコンピュータを使って提出させる。動画を撮影し、スピーキング等の効果的な取り組み、および評価につなげる。	学んだことや学んだ成果を記録するためにコンピュータを使う
保健体育科	体育においてはマット運動などで自分の姿をカメラで撮影し、自分の動きを客観視し、動きの改善につなげる。また、記録を保存し、時系列でどのような動きの変化があったか、整理し、発表する。	学んだことや学んだ成果を記録するためにコンピュータを使う
家庭科	調べたことや考えたことをコンピュータでまとめ、発表時に使用する。	調べたことや考えたことを発表するためにコンピュータを使う
芸術科	生成AIを使うことで、多くの視点が得られるようにする。	生成AIを活用したwebアプリによって生成した絵画、音楽等は表現をより豊かにする助けになる
情報科	情報活用能力の発展的な活用による深化	データ分析、プログラム作成
総合的な探究の時間	情報収集、テーマ検討、仮説検証、まとめなどの活動全般	インターネットを使って情報を収集するコンピュータを使って文章を作成するコンピュータを使ってプレゼンテーションを作成する学んだことや学んだ成果を記録するためにコンピュータを使う

全教科での取組にすることで、「学校全体で情報活用能力を育成する」という意識を全教職員で共有

1回目の意識調査の結果をもとに、各教科で情報活用能力を育成するための取組内容を検討

リーディングDXスクール事業【実践事例】

北海道帯広柏葉高等学校（北海道）【指定校】

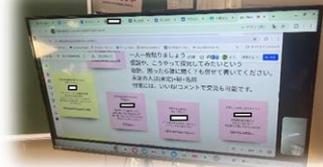
【取組内容】 教育課程全体を通じた情報活用能力の育成

各教科の取組の様子



コンピュータでデータを分析するとともに、その結果を他者と共有し、個人の学びに還元する

情報収集した内容を共有し、他者参照しながら、自身の考えを深める



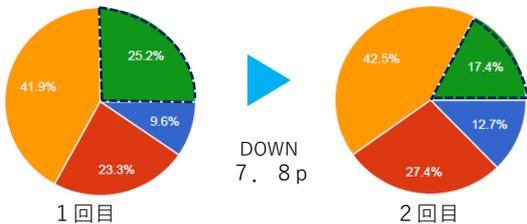
生成AI等の活用により、多くの視点を取り入れ、自身の学びを探究する



調査結果

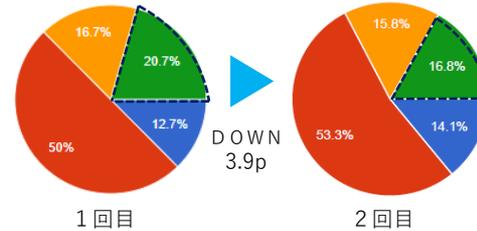
* 結果は一部であることに留意

クラウドサービスの活用について



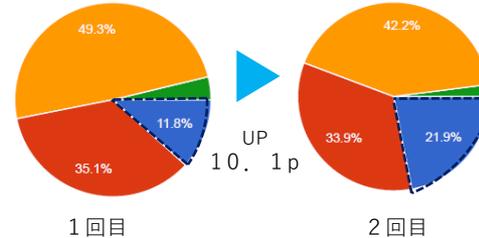
- クラウドサービスのファイル共有や共同編集を含め、多くの機能を理解し、効率的に活用できる
- クラウドサービスの基本的な使い方や機能を理解し、自ら学習に活用している
- クラウドサービスの基本的な使い方や機能を理解し、提示されたファイル（ドキュメントやスプレッドシート、スライドなど）について簡単な操作ができる
- クラウドサービスの基本的な概念や使い方が分からない

プレゼンテーションの場を自ら設定する場合について



- 伝達事項を聴講者に適切に伝えるために、場の設定を含むプレゼンテーションを効果的に行える
- プレゼンテーションの場を設定し、聴講者に伝えたいことを概ね伝えられる
- プレゼンテーションの場を設定することはできるが、伝達事項が不十分なことがある
- プレゼンテーションの場を設定することが難しい

課題を発見・認識するための情報収集について



- Webサイトや論文、文献などの複数の情報源に加え生成AIとの対話により収集している
- 複数のWebサイトや論文、文献など複数の情報源から収集している
- 複数のWebサイトから収集している
- 1つの情報源のみから収集している

結果の分析

- 各教科での活用が進み、共同編集機能などの活用が促進されたことにより、学習者はクラウドサービスを活用する意識を高めた。
- 生成AIに関する学習の効果もあり（様式Ⅲ-B1参照）、学習者は複数の情報源を活用して分析する意識を高めた。
- 「コンピュータを使ってプログラムを作成する」や、「調べたことや考えたことを共有するためにコンピュータを使う」などの項目は、既に高い結果であった。

今後の取組

情報活用能力向上のためのデジタルリテラシー研修や、実務に即したプログラミング・データ分析スキル向上の機会を提供することで、さらなるスキルの底上げが図られるよう、各教科で継続する取組や改善する取組などを精選していく。